

北海道内で 作られる 農作物で この地域で 栽培できない ものはない

明治初期、他府県からの移住開拓が北海道農業の始まりです。広大な自然と極寒の地で、開墾は試行錯誤の連続であったと思われます。ここ上川南部圏域では、道内で栽培できる農作物で、できないものはないというくらい、畑作物、園芸作物、施設作物の種類が生産されています。南北に細長く分布する6市町村では、耕地面積や土壌の違いによって、それぞれの特長が表れるのかもしれないと調べてみます。

パッチワークの秘密

美瑛町は、十勝岳連峰を背景にした丘陵地帯で、その丘陵部には畑が広が

り、丘陵を縫って流れる美瑛川、置杵川などの河川の流域に水田が形成されています。田畑を合わせた耕地面積は町の総土地面積の約2割を占めています。主な農作物を作付面積の多い順から並べてみると、小麦が最も多く次いで牧草、ビート、ジャガイモ、水稻、小豆の順となっています。輪作体系という言葉を知りました。土地の力を弱めないために、同じ土地に異なる作物を一定の期間を置いて周期的に栽培することだそうです。それが、毎年異なった美瑛独特の「パッチワーク」と表現される丘陵地帯での田園風景を創り出しています。また、乳牛4655頭、肉牛7329頭



▲トラクター、バケット、ビートハーベスター ▲ミニトマト(千果) ▲乾牧草と肥料などの混合機

(2009年調べ)と酪農畜産も盛んです。

かみふらのポークも

上富良野町は、富良野盆地の北部に位置します。市街地を囲む丘陵地帯は畑とカラマツの植林地で、南側の平坦地に水田が広がっています。主な農作物は、小麦、水稻、ビート、ジャガイモ、大豆などです。上富良野町では畜産も盛んで、特に豚肉は「かみふらのポーク」と呼ばれる特産品となっています。繁殖から肥育まで一貫生産で約3000頭の母豚を飼育し、年間6万頭の肉豚を出荷するそうです。おいしい豚肉づくりに「こだわり」があるとか。豚の飼料には木酢精製液、海藻、ヨモギ、ゼオライトという4つの天然成分が入った「地養素」を混ぜ、ストレスをかけないように飼育するということです。おいしいのは、当たり前なかも。地元で「豚さがり」と呼ばれる部位は横隔膜の一部でジューシーな味わいです。

稲作と花

中富良野町は、富良野盆地で最大の水田地帯です。

米や麦はもちろん、メロンやスイカなどの施設園芸から、タマネギ、ジャガイモ、ニンジンなどの畑作物まで、多くの農作物が作られています。中富良野町では、農業や化学肥料を削減、北のクリーン農産物表示制度により厳しく管理された「なかふらのクリーン米」の生産に取り組んでいます。稲わらは、土づくりのために全量回収して、堆肥化した後、田んぼに戻すという資源を有効に活用した循環型の栽培を行っているということです。安心安全なお米として、消費者に優しい米作りです。また、6月から9月にかけては、町花ラベンダーをはじめ、さまざまな花が咲き乱れる花のまちでもあります。

タマネギ・メロン・ふらのワイン

富良野市の主な農産物は、タマネギ、ニンジン、ジャガイモ、カボチャなどの畑作物、メロンやスイカ、イチゴなどの施設園芸、トマト、ピーマンなどの作物野菜と、富良野産の野菜はバラエティーに富んでいます。市の南側にある山部地区は、芦別岳の麓にある大自



記者レポート 北へ南へふらびズム



中富良野町の駅舎は、ちょっとした洋菓子店を思わせるような白が基調のしゃれた建物です。現駅舎は、1989年に改築されたということですが、2007年に無人駅になり、なんだかもったいないような気がします。乗降客の減少は、車社会の流れの中では避けられないことなのかなと思いながら、駅を出ます。**中富良野駅から徒歩10分**:北星山町営ラベンダー園です。北星山は、中富良野町民のシンボルといわれています。夏は「ラベンダーフェア」冬は

「ウインターフェスティバル」と町民にとっての夏冬の2大イベントの会場になります。北星山山頂からの眺望は十勝岳連峰の裾野に富良野盆地最大の水田地帯がきれいに区画整理されて広がり、眼下には中富良野町の市街地というなんとも絵になる景色です。冬はスキー場となる北星山。その斜面を彩る町花のラベンダーをはじめポピーやサルビアの花の香に包まれて…今回は、少し気取りながら次の駅に出発進行です!(恭)

▲町営ラベンダー園 冬はスキー場に変身 ▼北星山山頂からみた中富良野町



中富良野駅 ケーキは買えません



皆空窯近くの青い池

美瑛町白金温泉に程近い森の中、札幌出身の陶芸家・南正剛(みなみせいごう)さんの皆空窯はあります。20代の頃、モノづくりへの思いを抱きながら世界各地を旅する中、インドで素焼きの器に触れ陶芸という表現方法を選択されました。一から陶芸を学ぶため愛知県立瀬戸窯業(ようぎょう)高等学校陶芸専攻科へ進学。1981年瀬戸に皆空窯を開設後、多くの作品が誌面やドラマで紹介され広く知られることになります。穏やかな眼差しの奥に陶芸への真摯な姿勢を持ち続け

る南さんは「最初が肝心」とおっしゃいます。何事も最初に学んだことが後々まで影響するため、最初の環境選びが大切だと。遊学したヨーロッパと重なる風景をドラマ「北の国から」に見、このような風景の中で活動したいという思いから1983年移住されました。瀬戸で出会った奥様と二人三脚の創作活動の中で、多くのお弟子さんも育ててくれました。美術館のようなギャラリーは無料で見学でき、陶芸体験も可能です。(文)

皆空窯(かいこうがま) ☎0166-94-3354
〒071-0235 美瑛町白金
ギャラリー 営業時間:
午前8時30分～午後5時(火曜定休)

